

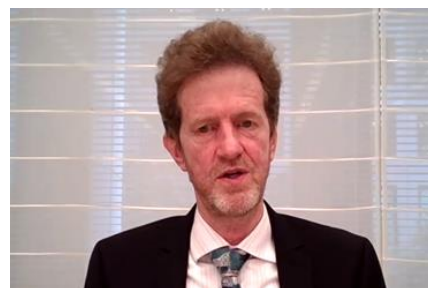
知日派英国人からみた持続可能な資本主義

—ウィッターカー・オックスフォード大学教授とのオンライン会合を開催—

2021年10月27日

講師：ヒュー・ウィッターカー

オックスフォード大学教授・日産日本問題研究所長



経済広報センターは10月27日、オックスフォード大学日産日本問題研究所のヒュー・ウィッターカー教授を招き、「持続可能な資本主義～知日派英国人の見方」と題するオンライン会合を開催した。会員企業などから約60名が参加した。

COP26開催国として脱炭素化を進めてきた英国だが、ガソリン不足や物価高騰などにより、サッチャー政権誕生前の「不満の冬」が再来するおそれがある。ウィッターカー氏はこうした状況を踏まえ、「ステークホルダーに配慮した社会的な目的に基づくビジネス」が「伝統的な金融中心の資本主義」と両立するかという問題を提起した。

そのなかでウィッターカー氏は、経団連が公表した「新成長戦略」にも触れつつ、日本が提唱するSociety 5.0は「人間中心」であり、市場重視の米国とも国家主導の中国とも違った路線であると評価。そのうえで、成長の先にある人間の姿をより具体的に示すことが今後の展開の課題とした。また、ESG経営を実践していた仏ダノンCEOが解任された例を挙げ、自己資本利益率（ROE）の改善を目的としていたコーポレートガバナンス改革がESG経営との両立を求めているものの、アクティビストと経営者の利害が一致しない状況が生じるとの懸念を示した。さらに、労使が協力して高度経済成長を遂げた日本の特性が、今後デジタルトランスフォーメーション（DX）やグリーン成長の分野でも発揮され、世界をリードしていくことに期待を寄せた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。